

海陽だより

荒尾海陽中学校
第4号(R7.5.26)

「挑戦！さらに一歩前進」
文責：校長 右田尚久

まさに「神かかり」の体育大会

5月18日に体育大会を行いました。3年生のリーダーを中心に3年生全員が学校全体を引っ張り素晴らしい体育大会にすることができました。迎え短い期間でしたが、朝練から1日3時間の練習と毎日積み重ねて午前中は「午前前」、午後は「午前中」でした。午後からは「午後後」と午前中開催では最悪の予報でした。木曜日には「午後後」になりました。決議論をして最終的には「グラウンド状態ができるのであるのなら小雨でも決行しよう」と内心決めていました。土曜日は午前2時に土砂降りの雨が1時間続き、午前中は準備ができる状態ではありませんでした。しかし、好転していく予報に変わっていたため、雨さえ降らなければできると確信し、生徒たちを帰して午後から教職員総出で準備をしました。ほこりもしない絶好のコンディションで、何もかもうまくいって体育大会を迎えることができました。このような天候の変化は初めての体験でした。

まさに「力戦奮闘」の体育大会

体育大会のスローガンの如く、生徒たちの一一致団結したリレーや団体競技が行われる中、中間発表の時点でも1位と4位の差が10点以内という大接戦。種目別に見ると、1位を多く取っている団でも他の競技では3位4位が多かったり、1位が少ない団でも他の競技が2位3位が多かったりと最後の最後までどの団が優勝するのかわからない状況でした。

結果、後者の青団が総合優勝となり、青団の生徒たちも驚いた表情でした。まさに力戦奮闘し、すべての団が力を出し尽くした体育大会でした。こんな最後まで結果がわからないドキドキしたのは初めての体験でした。

まさに「感動」の体育大会

誰一人として力を抜かない。クラスのため、団のため、仲間のために一生懸命に競技する生徒たち。ムカデ競走でうまく足を動かすためにはどうするか。次の走者にどうタスキを渡すとロストタイムがないか。リレーでうまくバトンをつなげて走順をどうすればより速く走れるか。長縄を多く跳ぶためには誰がどこで跳べばいいのか。回し方はどうすればいいのか。長い棒を早く回転させるためにはどう工夫すればいいか。綱を強く引くためにはどこに誰を配置すればいいか。等、担任や生徒同士でいろいろと作戦を練って本大会に挑んでいる姿がどの団にも見えました。一生懸命、目標に向かって挑戦し、観ている人に感動を与えた素晴らしい体育大会でした。こんなに感動した体育大会は初めての体験でした。

私は教職生活も37年を迎えます。したがって37回の体育大会及び運動会をしてきました。雨の中で行った運動会もあれば、雨のため途中で競技を打ち切り、一週間あけて続きを開催することもありました。しかし、本年度のようにミラクルが起こり、こんなにも心を揺さぶられる体育大会は初めてでした。その裏には、冒頭に書いたように3年生の頑張りと強い思い、それをしっかりと受け止めがんばった1・2年生がいたからだと思います。海陽中の生徒諸君、素晴らしい体育大会をありがとう。

体育大会の振り返り集会では、大藪先生の作成されたDVDを見て、その後、各学年から代表1名ずつ「体育大会を振り返って」の発表がありました。内容については次号で紹介します。



挑戦！さらに一步前進した体育大会